国際文化学会「学生会員への教育・研究補助金」

報告論文

「ODA と NGO の役割を知る」

国際文化学部　斉藤ゼミ一同

もくじ

はじめに

１　政府系国際機関

１－１　国際協力機構（JICA）

１－２　国際協力銀行（JBIC）

１－３　JICA・JBIC 訪問後の感想・意見

２　ジェンダー・教育班：関西 NGO 協議会・アジアボランティアセンター

２－１　関西 NGO 協議会

２－１－１　関西 NGO 協議会での質問と答え

２－１－２　関西 NGO 協議会訪問後の意見・感想

２－２　アジアボランティアセンター

２－２－１　アジアボランティアセンターでの質問・答え

２－２－２　アジアボランティアセンター訪問後の意見・感想

３　環境班：緑の地球ネットワーク

３－１　緑の地球ネットワークでの質問と答え

３－２　緑の地球ネットワーク訪問後の意見・感想

４　難民（平和構築）班：アジア協会アジア友の会

４－１　アジア友の会での質問と答え

４－２　アジア友の会訪問後の意見・感想

おわりに

文末資料

①参考資料　②合宿日程　③訪問先・訪問者リスト

はじめに

私たち斎藤ゼミでは、世界で起こっている貧困などの問題をテーマに研究している。この貧困などの問題は、原因はただ単にお金や物資がなく貧しいというだけではない。環境、歴史的背景、伝統的風習といった様々な原因が絡み合って貧困が生まれている。この複雑な問題に対して、世界各国の色々な立場の人が少しでもこの状況から脱しようと努力している。

去る 2005 年 9 月 8 日・9 日、私たち斎藤ゼミ 17 名は 1 泊 2 日のゼミ合宿を行った。この合宿の目的は、卒業論文に向けて、私たちの研究テーマである貧困などの問題について、日本で取り組んでいる団体を訪れ、現場で活動されている方々の話を伺い、その実態を知ることで、さらに理解を深めるということであった。

途上国民への支援について、支援する側とされる側における立場によって、支援の形や位置付けなどが変わる。そこで私たちは貧困などの問題に取り組んでいる団体の位置付けを「ODA」を扱う政府系の国際機関と民間の団体である「NGO」の２つに分け、両者の立場からそれぞれの現場の声と意見を知ることで、これからの活動のあり方を考えるということを趣旨とした。

初日に、全体で JICA 大阪国際センターと国際協力銀行大阪支店を訪問し、「ODA」である国際機関の立場からの意見を聞かせていただいた。翌日、参加者をジェンダー・教育班、環境班、難民（平和構築）班の３つのカテゴリーで班分けし、それぞれに「NGO」を訪問し、活動の現場や NGO の実態、意見を聞かせていただいた。NGO で訪問したのはジェンダー・教育班は「特定非営利法人アジアボランティアセンター」と同建物の「関西 NGO 協議会」を、環境班は「緑の地球ネットワーク」を、難民（平和構築）班は「アジア協会アジア友の会」を選定しそれぞれに訪問した。その後、各班で聞いてきたことを報告しあい、個人個人が気づいたこと、考えたことを話し合った。

１　政府系国際機関

１－１　国際協力機構（JICA）

９月８日午前、私達は国際協力機構(以下 JICA)JICA 大阪国際センターを訪れた。JICA では JICA の活動内容、政府系機関であることのメリット・デメリット、NGO との連携、日本人の国際協力への関心はどうかといったことを質問し、それに基づいて話をしていただいた。

JICA では ODA 事業の一環として、途上国の貧困、環境問題、感染症、紛争など開発におけるさまざまな問題解決に取り組んでいる。

JICA が政府系機関であることで NGO と比べて組織自体も大きいことに比例し予算も大きい。それにより、ハード面でのインフラ整備などの予算規模が大きな支援事業を行うことができる。それに伴い現地での雇用も生み出しているのだが、このような箱物事業への批判は近年強まっている。政府系の機関で国と国での関係があることから、国の根幹に関わるような事業を行うこともできる。また、広報面において ODA 支援の国民理解を促がすために広報活動に大々的に取り組むこともできる。

これとは逆に政府系機関であるがゆえにできないこともある。現地政府の圧力や他国との兼ね合いもあり、現地では支援を求めているにも関わらず、支援活動ができないこともある。草の根レベルで活動している NGO などならば独自でできるのに、政府機関のために国からの援助がストップしてしまうと、支援すべき状況であっても支援できないというもどかしさがあると話しておられた。

NGO の連携については、NGO や大学との協力など行っているようで、「JICA と関西 NGO 協議会との連携」や「政府との連携」の促進を図っているとおっしゃっていた。NGO の連携において、JICA は NGO から草の根レベルのきめ細かい支援などを学ぶことが課題であり、JICA ではまだできないところもあるため連携を深めたいという意見であった。

ODA への国民理解を促がすために広報活動にも力を入れている JICA であるが、日本人の国際協力への関心はどうなのか。近年、青年海外協力隊や大学の学部やゼミで JICA を訪問

する人が増えていることを通してみれば、関心は以前より高まっていると感じる、特に女性の関心は高いとおっしゃっていた。関心を高めるための JICA の工夫としてイベントなどを通して今まで国際協力といった活動に消極的だった人への興味・関心をもつためのきっかけをつくっているようだ。

１－２　国際協力銀行（JBIC）

同日午後、国際協力銀行（以下 JBIC）大阪支店を訪れた。ここではまず JBIC の業務について説明を受けたうえでの質問をし、さらに個人で気になることを質問していった。

JBIC は日本の対外経済対策・経済協力の遂行を担う政策金融機関である。国際協力銀行の業務として、日本の輸出入、日本企業の海外における経済活動の支援や国際金融秩序の安定に寄与するための貸付等を行う国際金融等業務と、開発途上地域の経済社会基盤整備、経済の安定に寄与するための貸付等を行う海外経済協力業務から構成されている。海外経済協力業務において、日本の ODA のうち、有償資金協力（円借款等）を担っている。円借款等による開発資金の貸付や開発に関わる調査を行っている（国際協力銀行パンフレット　Ｐ１－３）。

国際協力銀行は民間企業と違い、利益を目的としていない。損をしなければよいので途上国を支援できる。いかに民間資金を途上国に流すか、国際協力銀行の銀行業務をうまく活用して途上国に生かす力が大事である。

資金面での支援、銀行としての機能のようなものが大きいことを聞き、NGO との連携はうまくいっていないのでは？と質問した。NGO・JBIC 協議会を開き、NGO との意思疎通を図っていると返答があった。JICA と NGO が現地に行って活動をしているから、JBIC はお金の世話なので NGO と協力しなくてもよいということではなく、JBIC も NGO と協力していく必要があり、今後さらに連携を図っていくようだった。

↑JBIC にて

１－３　JICA・JBIC 訪問後の意見・感想

JICA・JBIC を訪問した後、NGO を訪問する班に分かれて感想などを話し合った。各班からは次のような感想があがった。

ODA について、JICA での話の中でも指摘されていたように、ODA の事業に対して批判的だった学生が「ODA は無駄なものを作っている」というイメージをもっていた。しかしこの訪問により「雇用のことも考えている。ビジネス目的であることもあるけれど、そうすることで支援される側にも仕事が増えることになる。めぐりめぐって自分達のためになるということを、ODA の目的や使われ方と同時にみんなに伝えるべきだ」という意見に変わっていた。また、政府系機関だからできること、政府系機関であるがゆえにできないことがあるが、NGO との連携が今以上にうまくいけば解決されていくのではないだろうかという意見が上がっていた。

JBIC について、やはり「銀行」からみた支援であるので経済発展が目的。企業のように利益を求めるのではなく、相手国の自助努力の成果というところを見たり、損のない程度の債務返済を望んでいる。JICA が一つの国や一つのプロジェクトに関してその国への支援や必要なことが明確で、各分野で専門性に優れていることに対して、JBIC は全体のこと、組織全体での課題というものをよくわかっているという意見があがった。NGO との連携については弱いと映ったが JICA と比べて NGO が行っている事業との分野の違いがあるためである。しかし JICA 同様に NGO との意思疎通を行い協力体制をとっていくことは両者にも、支援される国にとってもメリットのあることであるという意見もでていた。

↑班ごとの話合いの様子

２　ジェンダー・教育班：関西 NGO 協議会・アジアボランティアセンター

ジェンダー・教育班は翌日、自分たちの卒論のテーマに関わる、途上国の女性に対して教

育支援を行っているアジアボランティアセンター、関西の NGO ネットワークを作ることを目的として事業を行っている関西 NGO 協議会を訪問した。

２－１　関西 NGO 協議会

関西 NGO 協議会は、2 ヶ月に 1 回、各会員団体の活動状況などの情報交換や勉強会、「外務省・NGO 定期協議会」、「NGO・JICA 協議会」などでの政策提言、NGO 活動入門講座の開催などを通して、NGO 団体間のつながりを作り、政策提言、一般市民に対する NGO への参加促進を行っている団体である。

２－１－１　関西 NGO 協議会での質問と答え

関西 NGO 協議会では、事前に質問事項をお伝えしそれに応えて頂くかたちで、話をしていただいた。①NGO の役割、NGO だからこそ出来ること②JICA と NGO が協力して行っている事業に対して、どういった意見を持っておられるのか、ということを質問した。

まず、①の質問に関しては、政府の政策に取りこぼされている声をくみ上げることが NGO の役割であり、NGO だからこそできることは、国と国との関係にとらわれず、柔軟に動けることである。とおっしゃっておられた。②の質問に関して、主に JICA と共同で行った事業「JICA-NGO 連携による実践的参加型村落開発コース」を通じて感じたことを中心にお話をしていただいた。この事業は、アジアを中心とした 6～7 ヶ国、計 10～12 名程度の現地 NGO のスタッフ及び行政機関スタッフが、自分たちの経験と村落開発手法をシェアすることにより、相互にプロジェクト実施上の問題点について情報を交換・検討し、問題解決型の研修を行うというものである。初め、この事業は JICA から関西 NGO 協議会へ、受託事業として依頼が来たそうだ。しかし、JICA と NGO が「コツコツとお互いの意見をすり合わせていく」作業を行うことがとても重要であり、その中でよりよい関係を築いていくことが出来ると考えているため、受託事業ではなく準備段階から当日まで、お互いに意見を出し合いながら、共同で事業を進める形を取るようにしたそうだ。やはり、準備段階でお互いの意見の違いから、何度も話し合いを行ったそうだが、お互いに納得できるところまで話し合う中で、妥協点を見つけることができたそうだ。今後も NGO 側がきちんと政策提言を行いな

がら、JICA と NGO が共同で作業を行うことを通じて、連携を進めていくことが重要であるとおっしゃっておられた。

２－１－２　関西 NGO 協議会訪問後の意見・感想

前日話し合った中では、私たちは、政府機関と NGO との差異ばかりに目を向けがちだった。NGO と政府機関と連携する必要はあるが、差異の大きさから、その実現はとても難しいことのように考えていた。実際に関西 NGO 協議会の方に話を伺って、思った以上に政府機関と NGO との連携が進んでいることを知った。

確かにその差異は大きいが、政府機関でも、従来のトップダウン方式やインフラ整備中心事業から草の根の人々へのアプローチを重視する傾向が強まっており、NGO との連携の必要性を感じている。そして NGO の方でも、それに応じて政府機関との協力体制を整えつつある。今後 NGO が、単なる ODA の下請け機関とならないためにも、きちんと政策提言を行い、政府機関とＮＧＯが「コツコツとお互いの意見をすり合わせていく」作業を地道に続けていくことが、とても重要であるということに気づいた。

２－２　アジアボランティアセンター

アジアボランティアセンター（以下 AVC）は、人材育成・開発教育、スタディーツアー・ワークキャンプ、プロジェクト協力を行っていて、アジア理解セミナーなどの講座やワークショップ、スタディーツアー・ワークショップの開催、現地カウンターパート NGO が実施する特定プロジェクトへの協力を通して、国際的に通用する人材作りを目指している団体である。

２－２－１　AVC での質問と答え

スタッフの方に、①NGO と JICA や JBIC との違い、NGO の役割　②NGO が抱えている課題、という質問をした。

まず、①の質問に対しては、JICA・JBIC は国益ということを常に考えなければならず、できることが狭まってしまうことも多々あると、おっしゃっておられた。具体的に、AVC のプロジェクト地であるネパールにおいても、国の情勢が不安定であるため、政府機関の人た

ちは一番支援を必要としている農村に入ることが出来ず、都市でプロジェクトを行っているが、ネパールでは農村と都市の経済格差が深刻であり、それが国の情勢を不安定にしている一つの要因である。都市でしかプロジェクトを行えず、結果的に貧富の格差をさらに拡大させているという現状があるそうだ。それに対して、NGO では市民自身が自主的に活動を担っているため自由に動くことができ、一人一人の問題意識を形にできる。また国と国との関係にしばられないため、社会の変革を目指すといった、社会運動的なことも行えるということをおっしゃっておられた。

②NGO が抱えている課題としては、特に AVC の課題として、広報活動が上手くいっておらず、セミナーや講演会、ワークショップを開いても参加者が少ないということを指摘しておられた。また、資金不足から専門性がどうしてもうすれてしまう点、個々のモチベーションに左右されてしまうという点も、問題として挙げておられた。また、日本国内における人権団体や女性団体などとのネットワークが薄いことも課題であるとおっしゃっておられた。

↑AVC にて

２－２－２　AVC 訪問後の意見・感想

AVC のスタッフの方のお話を聞き、NGO と政府機関との違いや役割分担について、より具体的に理解出来た。また NGO が抱える課題についても、認識を深めることが出来、やはり、政府機関ではないからこそ、抱える問題もたくさんあることを知ることが出来た。広報が上手くいっていないという話を伺い、より多くの人に、「開発」途上国が抱える問題について知ってもらうことの重要性を感じた。

それは、前日 JICA・JBIC の職員の方たちがもっと JICA・JBIC が行っている事業の重要性をもっとより多くの国民に理解をしてもらうことが必要であると言っておられたことと、つながる。「開発」途上国の抱える問題を、もっと多くの人に関心をもってもらうために、政府機関・NGO が連携し啓発活動を行っていくことは可能であると思った。現在、関西にお

いて様々な NGO や JICA、JBIC、市民団体、が集まって実行委員会を結成し進めている、国際協力に関心をもってもらうためのイベント「ワン・ワールドフェスティバル」があるが、このようなイベントをより充実させ、促進させていくことが、必要であると感じた。

３　環境班：緑の地球ネットワーク

環境班の私たちは中国で植林事業などをおこなっている「緑の地球ネットワーク」を訪れた。

３－１　緑の地球ネットワークでの質問と答え

緑の地球ネットワークでは①プロジェクトの日々の取り組み、②現地の人とのギャップ、③緑の地球ネットワークの強み、ＮＧＯであることの強み、④ＪＩＣＡやＪＢＩＣとの関係、⑤これから　最終的にはどうしていきたいか、という質問をなげかけた。

①のプロジェクトについて、植林事業を行っており、水をやらなくてもよい木を植えている。日本の事務所はバックアップをしており、現地では現地の中国人のスタッフの人が活動している。春、夏にはワーキングツアーをおこなっており、現地の状況を知ったり、一緒に植林をするのだ。労働力としてではなく、体験、目的、得るものはひとそれぞれである。

中国は水がないことが問題なので、水をやらなくてもいい木を植えている。同じ木を多く植えてしまうと病気になるといっぺんに死んでしまうので、色々な種類のものを植えている。今後も増やしていく予定だ。日本の NGO の多くは砂漠の緑化に取り組んでいるので、情報交換して活用はまだできていない。

②の現地の人とのギャップについて、初めは感情面での反発が大きかった。初めのプロジェクトを始めた場所が日本人が虐殺を行った場所で、そのような歴史的背景から日本人に対する反発があり、日本人を追い出したことを誇りに思っており、プロジェクトも反対されていた。また、植えること自体に対しての反発もあり、植えた木を抜かれたりしていた。今は反発もなく、責められたりせずに、よい協力関係を築いてプロジェクトを進めている。

③のＮＧＯであることの強みについては、柔軟性があり、臨機応変な対応ができる点があ

る。新しい技術も早く取り入れられ対応できる。規模が大きくないため話し合いもしやすい。ODA はきっちりと予算や制度が決まっているのですぐに対応することができないこともあったり、JICA はプロジェクトの年数など決められており規則に縛られているのに対し、NGO は長いスパンでできるのが特徴である。

また弱みとしては、予算面で規模が小さいことが挙げられる。また、民が官にあわさなければいけないために民のよさが消えてしまうこともある。

④のＪＩＣＡ・ＪＢＩＣとの関係について、JICA と NGO の結びつきが大切と思っている人が多い。それぞれのよさがあるので、実情を見て、主張しあって、譲り合うべきだと考えている。仲良くしすぎずに、言いたいことはっきりと言っている。それぞれにあった役割があり、動かす額に見合った仕事のスタイルですることが大切である。

⑤の最終的にどうしていきたいのかについて、現地が自分たちの力でやっていける、食べていける、この仕事を続けていける力がつくまで続けていく。常に、日本がいなくなったときのことを考えて、現地の人はやっているのだ。

生活スタイル、暮らしが変わらなければ何も変わらない。国が成長していると環境は二の次になってしまう。緑化に対する中国の姿勢は、初めは環境を無視して大洪水が起こったり、成長による環境破壊のために大きな損害を受けたが、今は畑を戻し、緑化に取り組んでいるのである。

３－２　緑の地球ネットワーク訪問後の意見・感想

JICA、JBIC と比較して、目的こそは同じものの、やっていることやできること、できないこと、規模、考え方などは違っていた。

やはり、プロジェクトをはじめるにあたって、歴史的な背景による現地の人の反対から説得してここまで続けるのは、変えていこうとする気持ちやなぜ必要なのかを分かってもらう努力がとても大きいものだっただろうと感じた。

緑の地球ネットワークは、大同の人たちが自分たちでやっていけるようにすることの手助けをしているという感じで、プロジェクトをはじめたのは団体の方々でも、実際に現地の人々

が中心で自分たちでやっていけるように努力をしているからこそ進んでいるということを感じた。

緑の地球ネットワークの方たちは、お金が天から降ってくるのでは、自分で開発する威力を失うと考えており、JBIC のように利子をつけることで自ら開発する努力や返せる能力をつけるようにすることもひとつの方法であると思っているようだったが、協力しているというよりは、それぞれに仕事をしているという印象を受けた。しかし、JICA や JBIC との結びつきを大切だと思っている人が多かったように、それぞれのよい点を主張しあって、譲り合う、そして補いあうということが大切だと感じた。民は官にあわさざるを得ないこともあるようだが、それぞれが対等な立場に立てることができればよいと感じた。銀行は全く返ってこないような投資はできないであろうし、NGO は大金の必要なインフラ整備などはできないので、情報交換などをしてそれぞれの役割を果たしていくべきであろうと考える。

４　難民(平和構築)班：アジア協会アジア友の会

私たちが訪問した「アジア協力アジア友の会」は、飲料水が少なく、たとえあったとしても不衛生な水しかないアジア諸国に安全な水や井戸を贈ることを目的としているのである。

４－１　アジア友の会での質問と答え

「平和活動とは何か？」そんな唐突もない私たちの質問に暖かい言葉とともに答えてくださった。スタッフの皆さんはほとんどボランティアの方たちだというこの NGO 団体は色々な行事を行っている。偶然私たちが訪問した日、『ハロハロランチ』をしているので、参加してみないかと言われ参加させて頂きました。毎週金曜日にゲストを呼び、各国の風習や食生活などを語りながらという、手作りの料理を食べるというとてもフレンドリーな行事である。

その後、本題に入り平和構築について話してくださいました。自立開発協力事業について、現地の方の意識の変化について問いたところ、当初は現地の方は「始めた場狩りの頃は、自分たちは助けられているという意識が強かったように思う。」とおっしゃられていた。しかし、一緒に井戸を建設する計画を立てているうちに「自分たちで何とかしなくては」と思うよう

になったのだ。その変化の影には、支援されるという意識を持つのではなく、自分たち自身が生活していくにはどうすれば良いのかを自分たちで考えるようにしたからであるとのこと。そのため井戸建設の材料は日本で取り揃えるのではなく、現地の材料を使って現地の人自身が手掛けるという方法で進めてきたのだという。

次に「なぜ自己支援にこだわるのか」と質問すると、「私たち、ボランティア団体が援助し続けることも大切だが、それだけではなく現地のボランティアがいなくなっても自分たちだけで生活していけるようになるのが理想的で、そうするためには、援助しながら、現地住民の意識を変えていく、自立の方向へ意識を持っていくための教育も同時にしていくことも必要だ。なによりその現地の人の自立へのモチベーションを下げないようにするためにも、意識改革なくして支援はできない。」と彼女は笑顔で私たちに教えてくれた。

４－２　アジア友の会訪問後の意見・感想

このゼミ合宿で JICA や JBIC といった大きな組織と小さな NGO の両方を見たこともあり、他の NGO 同様「アジア友の会」のような小さな NGO は特に何もない所から作っていかなければならない最初の立ち上がり（資金の面等でも）というものが大変重要になってくるのだと感じた。また、「アジア友の会」がボランティアの子どもたちに伝えることは、子どもたちに不必要な情報を伝えることで、途上国の先入観のようなものを与えないために、その国がどういった国なのかは伝えず、ただ必要なことだけ伝え、真っ先に「自分より違う国への思いやり」の気持ちを持つことを伝えているということを聞いて、意識改革を率先しているのだと改めて感じた。

小さな組織だからこそ、草の根レベルでの活動ができ、現地で今何を必要としているのかをよく把握しており、さまざまな部分でのアフターフォローもできる体制ができている。知識を知恵に変える力を持つことによって、可能性はどんどん広げられるのだということを私自身学ばせてもらえた。

私たちに何ができるか、それは頭で考えるのではなく是非様々なイベントやボランティア活動に自ら参加し経験を増やすことである。その結果、たとえ失敗したとしてもそれが知恵

に繋がるのだからあきらめないで続けて欲しいと私たちが励まされてしまった。

「平和とは何なのか」誰もが行き当たる疑問の答えに対し、少し光が差し込んできたように思います。訪問先を去った後、私たちは時間が尽きるまで話し合っていました。「この方法は？」「誰にでも出来る協力とは？」目に見えむ平和について自分なりの意見を口に出し合っていました。こんなにも意見を言いあったのは、お互い初めてのことでした。しかし、言い終えた後にはみんなの顔がいつも以上に輝いていた。自分の意見を人に聞いてもらう。その意見を元にまた誰かの意見を聞く。こうした繰り返しも今後の平和への第一歩ではないかということを実感した一日となった。

おわりに

「ODA」と「NGO」にはそれぞれのメリット・デメリットがあり、役割があった。「ODA」を扱う JICA と JBIC において、JICA では支援にかけられる予算が大きく、インフラ整備などの大規模な支援や、国という単位での支援を行うことが役割であった。JBIC では銀行業務を生かした経済支援で無償ではなく、相手国の自立を促がす有償での支援を行うことが役割であった。しかし両者は政府系国際機関であるため、外交という側面もついて回っていた。また、草の根レベルでの支援は難しいようだった。それとは逆に「NGO」は草の根レベルの支援を行うことが役割であった。予算こそ少ないが JICA・JBIC にはできないきめの細かい支援を行っている。市民のレベルで柔軟に支援活動を行うことができる。また、現地の人々に近いところにいれることから、よりニーズに合った活動をしている。

温度に差はあるものの、JICA・JBIC と NGO の両者にお互いが協力しようという動きが見られ、今後さらにその連携が進むだろう。現時点での温度差を埋めることのできるように、お互いの理解を少しずつでも深めていってほしい。両者の協力体制ができるとともに、今までにやってきた方法よりもさらによい方法で支援を行うことができるだろう。これからの国際協力は色々な立場の人が互いの得意とするところを出し合って協力しあうということが大切である。

この合宿を通して、「ODA」と「NGO」の役割を明らかにし、支援をするということに対しても立場がいくつもあるということ、立場によっての意見の違いを改めて知ることができた。角度を変えてみることにより、共通する部分・違っている部分を発見することもできた。また卒業論文作成に向けての足がかりをつかむことができ、ゼミ生個人々々の国際協力に対する考えを深めていくきっかけにもなった２日間となった。

文末資料

①参考資料：国際協力銀行パンフレット「国際協力銀行の役割と機能－日本と国際経済社会の発展のために」

②合宿日程

日付	時間	項目	備考	
9月8日（木）	9:10	JR茨木駅集合		
	9:30	JICA大阪へ移動	近鉄バス→阪大病院前 →阪大病院前→JICA	
	10:03	JICA大阪到着		
	10:10	JICA職員よりお話を聞く		
	10:40	質疑応答		
	11:10	JICA館内見学		
	11:30	JICA食堂にて昼食		
	12:35	JICA大阪出発		
		移動	JR茨木→大阪 地下鉄四ツ橋梅田→肥後橋	
	15:00	国際協力銀行着 会議室移動と挨拶		
	15:10	国際協力銀行紹介ビデオ		
	15:25	レクチャー		
	16:00	休憩		
	16:05	質疑応答		
	16:30	13階資料室見学		
	16:40	終了		
		移動	肥後橋→梅田 夕飯買出し JR大阪→新大阪	
	18:30	チェックイン	新大阪ユースホステル	
	19:00	夕飯		
	19:45	本日のまとめ 翌日の準備	各班ごとにまとめ	
	21:30～	フリータイム		
9月9日（金）	8:00	起床		
	8:30	朝食		
	10:00	チェックアウト 各班ごとにNGO訪問 フリーな時間でまとめ	ジェンダー・教育班	関西NGO協議会（14:30） AVC（16:00）
			環境班	緑の地球ネットワーク（10:00）
			平和班	アジア友の会（12:00）
	17:45	梅田集合		
	18:00	報告会	各班のNGO報告/感想など	
	20:00	解散		

③訪問先・訪問者リスト

訪問先	担当者	訪問者
独立行政法人　国際協力機構（JICA）　JICA大阪 〒567-0058　大阪府茨木市西豊川町25-1 Tel：(072)641-6900（代） http://www.jica.go.jp/Index-j.html http://www.jbic.go.jp/japanese/index.php	田中職員 中川職員	井上　寺岡 大向　永井 奥田　倪 郭　廣島 鎌刈　福永
国際協力銀行（JBIC）大阪支店 〒530-0004 大阪市北区堂島浜1-4-4　アクア堂島東館13 階 TEL：06(6346)4770（代表） http://www.jbic.go.jp/japanese/index.php	鍛冶職員 佐藤職員	佐伯亜希子　森下 佐伯佳美　家祢 坂本　吉田 章
関西NGO協議会 〒530-0013　大阪市北区茶屋町2－30 TEL：06－6377－5144 http://park15.wakwak.com/~knc/	宮下職員	井上　章 奥田　永井 鎌刈 佐伯佳美
アジアボランティアセンター（AVC） 〒530 - 0013 大阪市北区茶屋町2 - 30 TEL 06 - 6376 - 354	山本職員	坂本
緑の地球ネットワーク 〒552-0012　大阪市港区市岡1-4-24　住宅情報ビル501号 TEL. 06-6576-6181 http://homepage3.nifty.com/gentree/	高見職員	佐伯亜希子　福永 郭　寺岡 倪　森下
アジア協会アジア友の会 〒550 - 0002 大阪市西区江戸堀1 - 2 - 16 山下ビル４ TEL 06 - 6444 - 0587 http://www.jafs.or.jp/	田中職員	大向　家祢 廣島　吉田